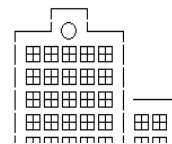


- 信州大学物理同窓会会報 0081号 (2022年夏秋号) SUPAA BULLETIN No. 81 ●
- 2022年8月17日発行 ●
- 発行所・信州大学物理同窓会事務局 (<https://www.supaa.com/>)
- 〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物理教室内
- 「旧文理学部物理学専攻」 + 「理学部物理学科」「理学部物理科学科」「理学部理学科物理学コース」のOB・OG & 学生と教職員の会 ■



はじめに

3年ぶりに物理会総会が開催できた。コロナ禍のなかを35名に会場参加いただき、Zoom配信のWEB参加者が33名に達して、例年の総会以上の規模となった。また、大勢の方からご支援金をいただき心から感謝申し上たい。Zoom配信は初の試みで、高エネ研の長谷川先生と2名の学生の協力で実現し、吉江先生の追悼会では統計研出身者で実行委員会が生まれ、20余名の会員に活

動いただいた。困難な状況を、こうして力を合わせて克服できたのは、思いがけない成功体験だった。OBたちの持つ凄いパワーを感じた。やはり我々の仲間は頼もしい。

丹羽公雄さん(文理17)がタウニュートリノ発見でポンテコルボ賞とパノフスキー賞の露米W受賞はお伝えしたが、今度は中日文化賞を受賞。名大でも後輩の中村光廣さん(11S)から解説原稿をいただいた。(高)

=====《巻頭のこの1枚》 季節を分け合う花たち =====



■撮影：倉田富二（理学3S） 志賀高原、田ノ原湿原を見下ろす小高い山の上は、例年より大分早い梅雨明けに伴い、ニッコウキスゲの黄色い絨毯が敷き詰められていた。この一帯は、レンゲツツジの橙色で始まり、湿原のヒメシャクナゲのピンクからワタスゲの白へと、花たちは季節を分け合い、彩りの変化が続いて行く。そして秋風が吹き始めると、そこはヤナギランの紫色の世界になる。
 ■撮影日：2022. 7. 6 ■撮影地：山ノ内町／志賀高原

【 I・N・D・E・X 】

◇ |新|コ|ー|ス|長|か|ら| 奥山和美です・・・・・・・・・・・・・・・・・・奥山 和美 (2)

|第|25|回|信|州|大|学|物|理|会|総|会|報|告|

- 第一部 経過報告／会場参加 35 名、WEB 参加 33 名の計 68 名の参加でした・・・・・・・・高藤 惇 (3)
- 《感想と感慨》 第 25 回信州大学物理会総会を終えて・・・・・・・・太平 博久 (8)
- 《総会主催者から》 開催へのご協力・ご参加に感謝します・・・・・・・・百瀬 佳典(9)
- 《WEB 参加報告》 第 25 回物理会総会に Zoom 参加してみても・・・・・・・・足助 尚志 (10)
- 第二部 吉江先生追悼会／吉江寛先生恩顧の統計研 0B たちが、中身濃い催し・・・・・・・・高藤 惇 (11)
- 《奥様からのメッセージ》 思い出の記〔会場で代読されました〕・・・・・・・・吉江 かなめ (12)
- 《追悼の言葉》 吉江 寛 先生、ありがとう・・・・・・・・上野 信雄 (14)
- 《実行委員長から》 吉江先生追悼会を報告します・・・・・・・・雲梯 隆夫 (16)
- ◇ 特別寄稿 |丹|羽|公|雄|氏|第|75|回|中|日|文|化|賞|受|賞| ・・中村 光廣 (18)
- ◇ ことし3月卒業生の進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(21)
- ◇ 【リレーコラム(22)】一学生の大学時代・・・・・・・・・・・・・・・・柳沢 淳一 (22)
- ★ 最近読んだ本／書評⑥ ★
- 『部分と全体-私の生涯の偉大な出会いと対話』 W. ハイゼンベルグ 著・・・・・・・・来田 歩 (26)
- ◇ |I|N|F|O|R|M|A|T|I|O|N|
- 信州大学理学部 国際宇宙科学研究センター Web サイト・・・・・・・・(29)
- ◇ |新|入|学|生|か|ら|の|声| (メッセージ)
- 本年度の新生の皆さん／入学式後の集合写真・・・・・・・・(30)
- 広がった世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川田 澄人(30)
- ◇ W|E|B|登|録|者|拡|大|運|動|ご協力ください！ (再掲載) ・(31)
- 《『同窓会費会計細則』決まる！》・(32) ◇ 編集後記・(33)

新コース長からのご挨拶

今年度の物理学コース長の奥山和美です

奥山 和美 (信州大学理学部理学科物理学コース長 素粒子理論研究室教授)

今年度の信州大学の授業の多くは対面で行われ、キャンパスには学生が溢れて活気が戻ってきました。まだ完全にコロナウイルスの影響がなくなったとは言い難い状況ですが、昨年度までと比べると授業を行う上でのコロナの影響は少しずつ小さくなってきていると感じます。これは感染者数が減少傾向にあるということもありますが、教員も学生もこの状況に慣れてきた、という要因が大ききような気がしま



す。コロナの状況には今後も注視していく必要がありますが、今後は「ポスト・コロナ」の時代を見据えた大学教育や社会のあり方が重要になってくると思います。

コロナ禍では大学の教育現場でも様々な問題が浮き彫りになりましたが、その反面ポジティブな影響もあったと考えています。その一つが様々な場面におけるオンラインの活用です。オンライン会議でよく用いられる zoom は、私はコロナ以前は聞いたこともありませんでしたが、今では日常的に使用する欠かせないコミュニケーションツールとなっています。4月に行った同窓会の幹事の方々との懇談会でも zoom を使用しました。物理学コースの教員の会議(我々は教室会議と呼んでいます)も、今では zoom で行っています。今後も大学内の会議はできるだけオンラインにして欲しい、と個人的には思っています。

研究の場面でも zoom の活用は進んでいます。国際会議もオンラインで行われることが多くなり、直接外国へ行かなくても最近の研究について聞くことができるようになったことは、コロナ禍がもたらした新しい研究スタイルと言えらると思います。また、物理学コースの素粒子・宇宙分野では毎週火曜日に「今週の物理」というセミナーを行っていますが、これも zoom で行っています。以前は、他大学からセミナー講師をお招きして「今週の物理」で話してもらおう、ということ半期に数回程度行っていましたが、zoom で行うようになってから他大学の人にセミナー講師を依頼することへのハードルが格段に下がったと感じています。実際に信州大に来てもらう必要がないので、遠方にいる研究者にも気軽にセミナーを依頼できるようになりました。信州大が内在的に抱えている地理的な制約、例えば首都圏から遠いことなど、はオンラインの活用で解決できる部分が多いと感じます。

これから物理学コースを卒業して社会へ旅立っていく学生達にも、このような新しい社会の中で活躍して欲しいと願っています。コロナ禍では物理同窓会からは様々なご支援を頂き、非常に感謝しています。物理同窓会におかれましては、今後とも物理学コースへのご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

さて、難しい年だったにもかかわらず、昨年度の4年次生は無事に卒業してゆきました。今年度の4年次生もコロナ禍を乗り越えて無事卒業してほしいものです。この間、物理同窓会からは様々なご支援を頂いており、感謝にたえません。物理同窓会の皆様には、今後とも後輩へのご支援をいただければと思います。

第25回信州大学物理会総会の報告

● 3年ぶりの総会に会場参加 35名、WEB参加 33名の計 68名の参加でした

第25回総会 第一部 経過報告

第25回総会は2022年7月16日(土)に松本の理学部第一講義棟を会場に開催されました。2020年予定された第23回、2021年予定された第24回が連続中止となったため、3年ぶりの開催となりました。会場参加者は、下の写真のように先生方を含めて35名でした。お年のせいか、文理卒の参加者は前回より2名減って5名。

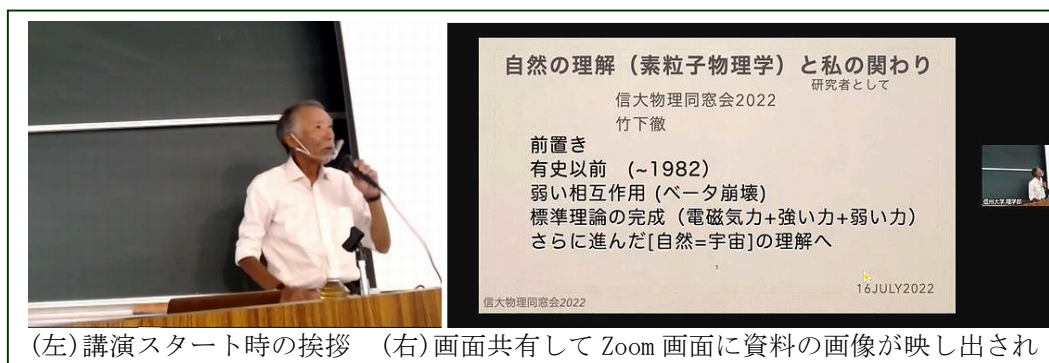
ただ、初代会長の平林喜明さん(文理6回)は諏訪から元気に駆けつけられました。名誉顧問の宮地先生、永井先生は欠席されました。うす曇りのこの日、12:30に役員と関係者は集合し、準備に入りました。



▲講演会のあと、吉江先生追悼会の準備の間に中庭で出席者全員集合写真撮影となった。

※ いよいよ総会の開始、それから記念講演会へ

午後2時開始冒頭、総会幹事会会長の百瀬佳典さん(17S)司会で会長・太平博久さん(6S)、前理事で副学長の武田三男さん(4S)から挨拶をいただいた後、竹下徹



(左)講演スタート時の挨拶 (右)画面共有して Zoom 画面に資料の画像が映し出され

先生の講演会に移りました。演題は、「自然の理解 (素粒子物理学) と私の関わり」で、約50分にわたり克明な図版や写真を交え、先生が取り組んでこられた素粒子解明に関する研究過程と結果などを説明されました。竹下先生は、2019年の3月で定年退職されました。その3月には「最終授業」の開催も予定されていましたが、新型コロナの流行で中止となってしまいました。現在、先生は特任教授と

して大学に残り、理学部附属国際宇宙科学研究センター長として活躍されています。今回の講演会の詳細は、次号 82 号（12 月下旬発行予定）で特集いたします。

※ 雨天の心配から先に記念撮影を終え、吉江先生追悼会へ

講演会の次のプログラムは、故吉江寛先生を偲んでの追悼会。ところが準備に 15 分ほどかかるとのことで、急遽、中庭で全員集合写真を撮影することに変更しました。実はこの判断が大正解で、30 分ほどして大粒の雨が降ってきたのでした。

吉江先生追悼会は午後 3:10 から、実行委員長の雲梯(うなて)隆夫さん(6S)の司会進行で、全員黙祷に始まり、悼辞を上野信雄さん(2S)が読み上げました。そして、長編のスライドショー(かなめ夫人からの「思い出の記」朗読、野球タイムス特集「吉江さん」、「先生の思い出」ビデオレターなど)が映し出されました。豊富な写真・資料とともにナレーションも本格的で、スライドショーの制作には、かなめ夫人の協力を得ながらのたいへんな労力の跡がしのばれました。会場からは笑いを交えながら、吉江先生のありし日の様子やピアノ演奏の音まで聴くことができ、感動の輪が静かに広がっていました。

「追悼会」実行委員の皆さんには、さらに総会後のしづかでの「吉江先生を語る会」、翌日の先生の郷里辰野での墓参り、本当にご苦労さまでした。おかげさまで、我々の気持ちのなかでも一区切りとして整理をつけることができました。先生も、どうかごゆっくりとお休みください。改めてご冥福をお祈りします。



(左)雲梯実行委員長の挨拶 (中)上野さんの悼辞 (右)スライドショーの一場面

(吉江先生追悼会関連の記事は下記の第二部に掲載しました)

※ 最後の大事な仕事は、年次総会での議案説明

予定の午後 4:00 から 10 分ほど遅れて、年次総会に移りました。総合司会は総会幹事会の三澤進さん(文理 16 回)が担当。議長、書記を決める前に、根建恭典前会長(2022 年 2 月 28 日逝去)と松原正樹前副会長(2020 年 3 月 8 日逝去)というお二人の当会にとっての大功労者に哀悼の意を捧げるために、全員で黙祷。根建さんについて赤羽徳英さん(文理 10 回)が、松原さんは高藤惇(2S)が、それぞれの人

となりを伝えるスピーチを行い故人を偲びました。

つづいて、議長に三上浩佳さん(文理 10 回)を、書記に白川栄治さん(23 S)を選出して、議事の審議に移行しました。審議事項と手順は以下の通りでした。

-
- (1) 議長・書記の選出【議長候補：三上浩佳(文理 10) 書記候補：白川栄治(23 S)】
 - (2) 一般経過・年次活動報告：同窓会事務局長・高藤 惇(2S) [↓主要骨子は下記に](#)
 - (3) 会則の一部改定について：〃 (学生院生を正会員に)
→ 『信大物理まつもと便り』031号／第25回総会直前特集号(7/8発行)を参照
 - (4) 新しい人事案について：〃 [↓新体制は下記に](#)
 - (5) 新しい人事案について 補足説明：総務担当・武原 一記 <審議・採決>
 - (6) 決算&予算案報告：会計担当・近藤 一郎(11S) <審議・採決>
→ 『信大物理まつもと便り』031号／第25回総会直前特集号(7/8発行)を参照
 - (7) 議長、書記解任
付1) 締め挨拶として大平会長から次回総会についての発言
付2) 初代会長・平林 喜明(文理 6) 氏からひとこと <散会>

全ての議案は異議なく可決承認。それぞれの具体案は次に掲載します。

●承認された議案 (2)

■ 信州大学物理同窓会の 2021 年度活動報告と今後の方針(主な項目抜粋)

信州大学物理同窓会事務局長 高藤 惇 (2S 統計研究室)

◎ 当会では、①月 1 回の Zoom による事務局(役員)会議 ②年 4 回(季刊)の同窓会報(PDF)の発行と不定期のメルマガ「信大物理まつもと便り」の発行 ③年次総会の開催 の三つが大きな活動の柱となっています。

組織として、④学年・研究室世話人制度を設け、全 74 学年中、現在 54 学年と 7 研究室全部の世話人を擁しています。さらに次世代に同窓会活動を引き継ぐべく、2015 年に学生・院生(入学時にすでに当会の正会員)の⑤学生世話人会を立ち上げました。年数回の会合で課題を討議し、総会運営にも参加してもらっています。が、近年コロナの影響もあって、学生世話人会の活動は停滞していると言わざるをえません。また、世話人会総代を設けたりして世話人活動の活発化を計ってきましたが、大きな進展はみられません。学生と OBOG との交流を含めて、この組織を今後どのように運営し活性化させていくのか、大きな課題です。

同窓会活動状況をなるべく迅速に報告するため、WEB 会員登録時に加入する当会メンバーリスト(現在 450 名ほど)によって同窓会報やメルマガ、訃報やニュースなどを配信しています。また、⑥WEB サイトを設置(2002 年の当会発足とほぼ同時)しており、さまざまな情報を発信し、オーダーフォームも稼働しています。近年は WEB サイトへの年間訪問者が 2 万件近くに達しています。

ただ、上に述べたように順風満帆ということではありません。特に、世話人会の運営方法、将来の同窓会の担い手である学生世話人会をどう運営して育ててい

くかなど、大きな壁にぶち当たっています。ここは知恵をしぼり、責任感ある担当者を配置するなどして、当面、全力を挙げて挑んでいく所存です。

また、大学側の先生方とのご協力も不可欠です。新しいコース長(任期1年)とは毎年Zoom等によって懇談会を開催しています。今総会のZoom配信にあたっては、高エネルギー研、そして吉江先生追悼会にあたっては磁性実験研の多大なるご協力を得て実現しました。これからも相互理解を深めて、協力関係を築いていきたいと考えています。これも当同窓会のミッションのひとつと考えます。

まとめとして、以下に方針(課題)5要点といたします。

- 方針・1 [学年・研究室世話人にもっと活躍していただく] (詳細省略/以下同)
- 方針・2 [WEBからの会員登録者(当会ML参加者)を拡大する]
- 方針・3 [学生との交流「物理学生のための就職セミナー」等をどう継続推進するか]
- 方針・4 [名簿と同窓会報(PDF)およびメルマガ「便り」の編集体制を強化する]
- 方針・5 [財政のさらなる健全化を計るための方策とは]

●承認された議案議題(4)

■ 第25回総会に提出の新しい「物理同窓会役員構成」(敬称略 ★は新任)

役職	年次	氏名	担当
会長	6S	太平 博久	
副会長	1S	小島 浩司	
副会長	3S	飯沼 和男	
★副会長	17S	百瀬 佳典	
名誉顧問	元教官	宮地 良彦	
名誉顧問	元教官	永井 寛	
★名誉顧問	元教官	武田 三男	
顧問	文理1	青木 治三	
顧問	文理2	竹村 一司	
顧問	文理6	平林 喜明	
会計監査	2S	小西 義雄	
★会計監査	5S	宮城 信雄	
事務局長	2S	高藤 惇	WEB担当、学生賛助担当、同窓会報編集委員 編集長
副事務局長	17S	百瀬 佳典	総務 学生世話人会担当 同窓会報編集委員 (副会長)
★副事務局長	22S	武原 一記	総務 同窓会報編集委員副事務局長
副事務局長	91SA	志水 久	会計担当
事務局	1S	小島 浩司	学年・研究室世話人会顧問 (副会長)
事務局	6S	太平 博久	学年・研究室世話人担当、同窓会会報編集委員 (会長)
事務局	17S	足助 尚志	名簿担当 同窓会報編集委員
★事務局	6S	雲梯 隆夫	学年・研究室世話人会総代
★事務局	10S	加藤 美孝	WEB、ML担当 関西地区世話人
事務局	12S	近藤 一郎	会計担当
事務局	22S	來田 歩	同窓会報編集委員 副編集長
事務局	22S	武原 一記	総務 同窓会報編集委員
事務局	014ST	堀内 貴史	学年・研究室世話人担当
★事務局	03S	三浦 貴司	



<以上文責／高藤 惇(理学2S/統計研究室 当会事務局長・会報編集長)>

===== 第25回信州大学物理会総会幹事 =====

■幹事長・百瀬佳典(理17S) ■三澤進(文理16) ■高藤惇(2S) ■白川栄治(理23S)

■志水久(91SA) *協力：信州大学物理同窓会学生世話人会

=====

● 《感想と感慨》 第25回信州大学物理会総会を終えて

太平 博久(理学6S/電子研究室 当会会長 茨城県在住)

まずは、3年振りの物理同窓会総会を開催できたことを、大変喜ばしく思い安堵しています。コロナ禍という人類全体に降りかかったCOVID-19のパンデミックにより過去2回の同窓会総会の中止を経て、ようやく会員皆様とお会いすることが出来ました。総会実行委員会の皆様には大変ご苦勞を頂きました。



竹下先生には2年前からのご講演をお願いしておきながら、大変お待たせいたしました。「自然の理解(素粒子物理学)の進展と私の関わり」と題して宇宙の根幹に迫る世界的研究をご紹介頂きました。また、昨年末にお亡くなりになった統計研の吉江先生の追悼会も、統計研OBの方々を中心となって厳かに行われ、懐かしく楽しい会でした。この講演会と追悼会については、同窓会総会として初めてのZoom配信を行い、会場参加者35人に加えて、33人もの会員のWEB参加を頂きました。このZoom配信については高エネルギー研究室の長谷川庸司先生に全面的ご支援を頂き、現役の学生さんにも協力を頂きました。

同窓会総会の議事においては、別途報告の通り、全ての議案についてのご賛同を頂き可決することができ、事務局役員の幾らかの若返りを図ることも出来ました。この新体制において、同窓会として現役学生の皆さんは勿論、大学の先生方との連携を深

めつつ活動を続けていきたいと思えます。

同窓会総会の恒例となっていた懇親会はコロナ禍の中で中止とせざるを得ませんでしたし、思誠寮寮歌「春寂寥」の大合唱もできませんでした、来年は盛大に開催できることを願っております。

なお今回の総会では、統計研 OB から吉江先生追悼会へ多くの方が参加いただき、大きく貢献して頂きました。統計研の楽しい雰囲気は、物理科のなかでも際立っていて、同期の雲梯君から色々聞いていて大変羨ましく思っていました。

● 《総会主催者から》 開催へのご協力・ご参加に感謝します

百瀬 佳典（理学 17S/電子研究室 総会幹事長 松本市在住）

信州大学物理会総会は一昨年、昨年と新型コロナ感染拡大防止のため、開催を見合わせてまいりました。しかし、今回多くの方々にご協力いただき、3年ぶりに第25回総会の開催となりました。

記念講演会は一昨年から2度も中止となり大変ご迷惑をおかけしました竹下先生に、『自然の理解（素粒子物理学）の進展と私の関わり』としてご講演いただき、大変興味深く拝聴させていただきました。参加いただいた方からも良い反応をいただき、大変ありがとうございました。

総会の開催では初めてとなる Zoom 配信ができたのは、長谷川先生はじめ学生さんに事前準備・開場設営から協力いただき、開催中も配信状況を常に確認し適切に対応いただいたおかげで、感謝の念に堪えません。また、Zoom で配信した吉江先生追悼会のみでなく、『しづか』での「吉江先生の思い出を語る会」と吉江先生の墓参まで統計研・磁性研のOBの方との連絡など雲梯（うなて）さん（6S）をはじめとする実行委員会の皆さまのご協力に御礼申し上げます。

年次総会につきましても、一昨年から総会を開催できていないため、事前の準備から当日の進行まで、同窓会事務局の皆さんの経験に基づく助言と配慮によるものです。ありがとうございました。

物理会総会も第25回ということで、四半世紀の区切りを迎えたこととなります。会場へお越しいただいた方、WEB で参加いただいた方、準備開催に協力いただいた方に心より感謝申し上げます。同窓会を継続し、母校である信州大学・理学部の物理学コースの発展に協力・支援するためにも、コロナ後に向けて適切な組織となるよう、これからも皆さまのご協力の程よろしくお願い申し上げます。



● 《WEB 参加報告》 第 25 回物理会総会に Zoom 参加してみても

足助 尚志 (理学 17S・12SM/物性理論研究室 凸版印刷株式会社)

私は残念ながら松本会場には行けず、Zoom での参加となりました。仕事ではよく使われるツールであり、違和感なく参加できました。以下、感想を書かせて頂きます。

竹下先生の講演は、素粒子実験分野のお話で、私が学生の時には信州大学にはなかった領域であり、非常に興味深く拝聴しました。物を分割した先の素粒子の研究が、巨大構造を持つ宇宙に結びついていることは、よく言われることですが、改めて整理された素粒子の周期表を見せて頂き、また素粒子物理が宇宙創成学に結びつくところなどは、高校生の時に科学の基礎である物理を学ぼう、物理学科を目指そうと、夢見た世界が実際の研究としてどのように進められているか垣間見ることができ、高揚した気分でお話を聞き終わりました。最後に質疑応答の時間が取れると、なおよかったと思います。

吉江先生の追悼会は、学生に愛された先生のお人柄通りの暖かい会であったと思います。多くの写真を見せて頂きましたし、破天荒なエピソードには事欠かず、想い出話には感じ入るものがありました。吉江先生は優れた教育者であったのだなあ、と改めて思うのは、私は理論系だったので大学での実験時間は多くないのですが、卒業後、企業や大学で実験していた時のベース、基本的なところというのは、信州大学時代に培われたものだと感じることです。吉江先生の学生のレポートチェックや面接の際での気配りを思い出すと、基礎実験（その時はつまらない課題と思う実験もありましたが）、その証跡がどこかに刻まれていて消えることがない。それを誇りに思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今回、Zoom では、年次総会への参加ができませんでした。規約によるものかもしれませんが、昨今の通信環境を考えれば、オンラインで総会への参加もできるのではないかと思います。その場の会場の雰囲気が伝わり難かったり、カメラでは発言者の方の全体が見えなかったり、オンラインの限界もあるわけですが、今後の総会のあり方として議論することも必要に思いました。

来年度は順番からすると東京となるのでしょうか。多くの人が集まり易いであろうということで、東京や名古屋も検討されているようですが、やはり本山ともいべき、松本での開催を望むのは我が儘でしょうか。信州に行ける、大事な言い訳の一つなのです。



● 吉江寛先生恩顧の統計研OBたちが、中身濃い「追悼会」を催しました

第25回総会
第二部
吉江先生
追悼会

昨年12月にお亡くなりになられた吉江寛先生の追悼会を、総会のなかで開催しようと、当会事務局が発案して奥さんにご相談したところご賛同をいただき、上野さん、宮城さん、雲梯(うなて)さんら、先生と特に親しかったメンバーに伝達。その動きは素早く、トントン拍子に準備が進みました。6月には実行委

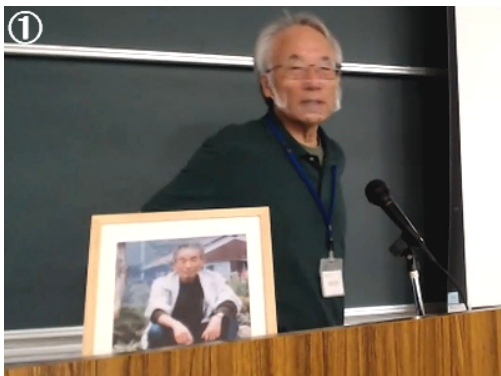
員会が結成され、雲梯(うなて)さんが委員長として統括してくれることになりました。

とりわけ追悼会のなかで、先生のおもかげを再現するスライドショーをつくろうと、雲梯さんを中心に作成され、追悼会で披露されました。会場ならびにZoom視聴のWEB参加の皆さんに、大きな感動を呼ぶことになりました。また、総会後にはしづかで「思い出を語る会」を催し、その後一同は浅間温泉のみやま荘に宿泊して、翌朝には辰野にある先生のお墓に墓参して散会となりました。吉江先生とゆかりの門下生たちにとって、今回の追悼会はひとつの心の区切りとなる大きなエポックとなりました。

吉江先生 追悼会

- ・ 開会の辞 雲梯 隆夫(6S)
- ・ 黙祷
- ・ 悼辞 上野 信雄(2S)
- ・ スライドショー
 思い出の記(代読) 吉江かなめ 様
 棒球タイムス
 特集「吉江さん」 雲梯
- ・ 先生の思い出
 ビデオレター
 茂木 茂男(22S) 2分
 Zoomで一言

(総会での追悼会スライドショーより)



①追悼会開始前、緊張したおももちの雲梯さん ②総会後、居酒屋「しづか」での「語る会」に集まったメンメン ③翌日の墓参では、お孫さんが道案内をしてくれた ④先生宅にて、散会まえのひととき

● 《奥様からのメッセージ》 思い出の記 [会場で代読されました]

吉江 かなめ (文理 12 回 化学専攻 吉江先生令夫人 辰野町在住)

信州大学物理の同窓会で、再度夫寛の追悼企画をしてくださるとのこと。本当にありがとうございます。夫も元学生さんたちがいろいろな意味で、思い出して下さることが一番うれしいことだと思っています。夫は1967年 助手のころから学生さんたちと公私ともに付き合いが多く、週1~2日は家にいましたが、大学に詰めていることがほとんどでした。1970年代になると時々自宅にも学生さんが来られました。大勢だったので、みんながどこで寝ていたのかもわからないほどでした。長女が幼稚園の頃でした。

とくにこの頃の学生さんは夫と一生付き合っていただけ大事な方々が多かったと思います。それから後も学生さんたちと一緒に実験などをしていたのでしょう。日曜日以外は毎週水曜日に帰ってきただけでした。その後も学生さんの仲人をしたり、ご両親が遊びに来てくれたり、ご夫婦で子供たちを連れて泊まって遊んで行ってくれたりしました。こんな時はバーベQがお得意でした。小坂先生・可知先生とは外国旅行などもして、Y・K・Kと名前をつけて最後まで友好を深めていました。

ここで、余談になりますが手元に、夫の弾いた枯葉のピアノ演奏のテープがあります。夫はこれを自分の葬奏曲と言っています。小坂先生の奥さんにお話をしながら、私のコーラス用の小型録音機で、自分で録音してありました。哀愁があって、なんとなく様になっているのが夫らしいです。また大学を辞めてから油絵も書いていました。お友達が欲しいと言ってあげていましたので、家にはあまり残っていませんがセンスの良い絵ですので、我が家のアクセサリーになっています。面白い人でした。

乗り物もオートバイからチェリークーペ、セリカでした。その後は、乗り心地より格好がよいものを・・・と、ずーっとフェアレディZでした。ほとんど赤でしたが、最後はブルーでした。赤いZの時に、私が1度バックして前面の角を軽くぶつけたことがありました。古く塩カルで腐食していたのでしょう。タイヤのカバー部分がぼろっと取れました。私が1万円の慰謝料を払いました。その後車を新しく変えたようです。

また信州大学では実験装置が少ないためか、ヘリウムを使用する反応機器(?)を借りるため、はじめは東北大学に、その後京都大学に学生とよく出かけるようになりました。そこでいつも活躍したのが赤いZでした。学生さんが喜んで運転してくれるのでよかったです。



夫の海外旅行は、プラハでの学会で始まりました。50歳を過ぎたころです。パリ、ベルン、ウィーン、プラハ、フランクフルトを回り、この時の強い印象が「お父さんプラハへ行く」を書くことになりました。それから外国旅行が大好きになり、学会ばかりでなく、個人・夫婦・親子・友達と楽しみました。夫との旅行はツアーではないので自分で交渉する不安なこともありましたが、印象強く残っています。また、プラハ・ベルン・ケアンズなど、自分でよかったところへはまた私を連れて行ってくれました。そして安全だからと言って、高級ホテルに泊めてくれました。

このほかに夫は1995年文部省在外で、グルノーブルに3ヶ月いました。6ヶ月では長すぎるので、半分にしてもらったと言っていました。やはり日本がよいでしょう。

夫と犬との関係は1987年タローを松本の店から突然買って来たことからです。このタローが13歳のころ、腫瘍の手術の後亡くなったので、次はイチローを買ってきました。両方ともシェルティーでした。餌以外にお饅頭などを時々与えるので、いつも太り気味でした。遊びに来た学生さんにもかわいがってもらいました。夫はイチローとよく芝の上で一緒にごろごろ寝ていました。外で飼っていた犬でしたのに、自分の布団の中に入れても平気で、私は閉口しました。夫のイチローへの思い入れは強く、イチローが12歳で食べられなくなり、亡くなった後、夫は気落ちして大変でした。そこで塩尻の店に一緒に行って元気そうなひとまわり小さいコーギー犬ラッキーを買いました。シェルティーより少し気が強い犬でした。夫が散歩して面倒を見ていましたが途中から私が散歩するようになりました。でも歩けるうちは毎日、餌とチョイスというクッキーを与えに行きました。10歳になりましたが、病気1つせず、今も元気です。

私たちの子供3人はおかげさまで、それぞれ家庭を持ち、孫も全部で5人です。私は長男家族と同居し、今までの生活を続けています。お近くに来られた時はぜひお寄りください。楽しみにしています。



長くなりまし同窓会役員の高藤さん、今回追悼会の面倒を見てくださる雲梯さん・上野さん・宮城さん、そして物理の同窓生の皆さん、いろいろありがとうございました。ご健康で、ますます活躍されることを願っております。

● 《追悼の言葉》 吉江 寛 先生、ありがとう [会場でのスピーチ]

上野 信雄 (理学2S 千葉大学名誉教授・学術研究アドバイザー 日本学術振興会・前ロンドン研究連絡センター長 千葉市在住)

吉江寛先生は、昭和12年(1937)3月26日に長野県辰野町で誕生され、同36年(1961)、金沢大学・理学部・物理学科を卒業されました。母上の叱咤激励によって進路を変更され、同大学院修士課程に進学し、修了されました。長野県・池田工業高校で2年間、教鞭を執られた後、同42年4月(1967)、発足間もない信州大学・理学部・物理学科の助手に着任され、同62年(1987)助教授、平成8年(1996年)教授に昇進され、同14年(2002)に定年退官されました。信州大に在職中は、強磁性体に関する研究で52件の論文を発表されました。学生の教育でも手腕を発揮され、信州大の新入学者の6割以上が受講した名講義の開講、また教職員組合の組合長等により大学に大いに貢献されました。加えて「棒球タイムス」「月刊お父さん」等、複数の新聞発行など、多彩な足跡をのこされましたが、令和2年(2020)12月6日に永眠されました。享年84才(満83才)でした。



55年前、吉江先生が物理学科に着任された年、我々2Sが物理学科に入学しました。私は、天文少年で他分野を知らず、大学ではまず空手部に入って体を鍛えることに没頭し、勉強では広い教養を目標に、取り得る限り多くの科目を受講、加えて旧制高校の定番の本を片っ端からかじる、という生活に飛び込みました。また夏を過ぎると、コンパや大学祭でのアルコール訓練と寮歌・春寂寥三昧で、まさに“どくとるマンボウ青春期”の生活でした。

2年生に進級して学生実験で吉江先生と接するようになり、県にあった旧制松高時代の校舎から現旭町キャンパスにあった陸軍の木造校舎への実験室の引っ越しや先生の研究を手伝いました。この頃、南松本にあった県営住宅の先生宅へオートバイで連れて行っていただいたことを記憶しています。2年生の時には大学の先生宅に行くことを経験しました。吉江先生と親しく話をする機会に恵まれ、その結果、専門科目においても「重要な科目に力を入れる」ようになりました。2年生の冬に、先生の薦めで、3年生の勉強の準備のために、ポーリング&ウィルソンの量子力学序論を一人で読みました。ようやく自分が大学生へ脱皮し始めた、と思います。



1969年 直江津の海一砂に埋もれて：
吉江先生(32歳)と上野(2S/3年生の夏)

3年生に進級すると、理学部新棟の半分が完成したので、木造の校舎から新棟への引っ越しを手伝いました。統計研の行き先は新棟5階の西側です。廊下の突き当たりには大きな学生実験室があり、新しい実験台は卓球台と同じ大きさ、吉江先生が意図して設計したもので驚くほど融通のきく先生でした。

この頃、先生は、南松本から辰野の実家に引っ越しされましたが、研究時間を確保するために、week daysは教官室に泊まり込む生活を開始されました。あるとき『スリクターの「核磁気共鳴の原理」を読むから一緒に勉強しないか』と声をかけていただき、夜9時頃から11時頃まで先生と勉強しました。自分にとって何を勉強すべきかが分かる刺激的な時間で、自分自身が研究への道への一歩を踏み出すきっかけになったと感じています。

当時は学生紛争のまっただ中で、学内は騒がしく下宿では一人になりにくい時代だったので、夜間に統計研の暗室を借りて勉強しました。私は実験台の上で寝ていましたが、朝になると、先生がアカイのラジカセでラ・メールを廊下に響き渡る音でかけておられたのが、耳にのこっています。3年生の時代に統計研に入り浸りで、勉強だけでなく、吉江先生、永井先生の他、統計研に顔を出す他講座の先生や先輩らとの多彩な議論、将棋のほか、車でドライブ、夏は海水浴、冬は美鈴湖でスケートなどと、あちこちへも行きました。

振り返るとこの2年生から3年生の生活は大学生としては希な経験だったと思います。

4年生に進級したときは、吉江先生は1年間の予定で東北大に行かれており不在で、永井先生の元で卒研を行いました。言い換えると、私は3年生と4年生で厳しい卒研を2回経験する幸運に恵まれました。

葛藤の多い青年期に沢山の先生とも親しく交流する学生生活を経験し、小さい自分の殻からいち早く抜け出すことができたと思います。卒業後は、東北大学・大学院に進学することになりました。非常に多忙でしたが、希有と思える学生生活を送りながら「青春を爆発」させることができたことは、2年生の頃から、吉江先生から「自由と規律」の精神を学んだ結果だと思います。良き師に巡り会い、「よく遊び、よく語り、よく学んだ」、という実感があります。



1974年 統計研学生控え室 ピンホールカメラ写真
(総会での追悼会スライドショーより)
上段・左から 松島(4S), 井藤(7S),
下段・左から 吉江先生(37歳) 西村(3S/素粒子研)
雲梯(6S), 北林(技官).

吉江先生は、友人のように学生と共に歩き、教師として、人生の大先輩として、また時には同世代の友人として、私をはじめ多くの学生を長い間、見守って下さいました。 本当に有り難うございました。

令和4年（2022）7月16日

追記：追悼会で幾つかの吉江先生の写真が紹介されましたが、すべて先生が眼鏡をかけておられない写真です。しかし、私たち2Sの時代は、吉江先生はいつも眼鏡をかけておられるのが普通でした。その後、眼鏡をかけなくなるとき、母上から「眼鏡をかけていた方が賢そうに見えてよかった」と言われた“、”と言っておられたのを記憶しています。上記の直江津海岸での写真は海水浴中なので眼鏡は無しです。

● 《実行委員長から》 吉江先生追悼会を報告します

雲梯（うなて）隆夫（理学6S／統計研究室 元積水化学工業（株）堺市在住）

2020.12.7に先生の訃報を聞いた時、コロナ禍の中で葬儀にも行けずむなしい思いをしました。7/16の物理同窓会総会で、先生の「追悼会」を行うので実行委員を引き受けてほしいとの依頼がありました。先生への感謝の気持ちを少しでも表すことが出来ればと思い引き受けることにしました。また、先生はみんなが集まり酒を飲むのが好きなので、追悼会の後、「吉江先生の思い出を語る会」と「墓参り」を計画しました。



※ 「しづか」での語る会

「追悼会」のために先生の奥様から提供頂いたメッセージ、写真、録音を基にスライドショーを行いました。懐かしい写真と共に先生がピアノで枯葉の曲を弾き、友人とのおしゃべりの声を聞くと今にも声を掛けてもらえるような気がしました。また、先生は「棒球タイムス」のオーナー・編集長・社長など兼任されていましたが、編集長の検閲なしに「棒球タイムス」特集“吉江さん”を発行しました。研究者・教育者の業績と共に、『お父さんプラハに行く』の中の短編“車の選び方”は先生の車に対する執着心と個性豊かな横顔を著していました。奥様から見た家庭での先生、卒業生が見た先生を紹介することができたと思います。

「吉江先生の思い出を語る会」は統計研卒業生を中心に“しづか”で行いました。参加者は先生に大変お世話になった卒業生で、各自の思い出を語り、仕事の都合で参加できなかった方のメッセージも回覧し先生を偲びました。思い出話を聞いていると、先生がその人の人生を左右するインパクトを与えていた事があったからこそ

枯葉の演奏

演奏をお聞きたい



特集「吉江さん」スポーツ

棒球タイムス (6) 2022年 7月16日 発行

棒球クラブ



Speed Gun
91Km/s
投手成績
対外試合:0勝1負
打率
2割6分3厘

(総会での追悼会スライドショーより)

コロナ禍中、先生への感謝の気持ちを表したいため参加したのだと感じました。学教育者の業績と共に、『お父さんプラハに行く』の中の短編“車の選び方”は先生の車に対する執着心と個性豊かな横顔を著していました。奥様から見た家庭での先生、卒業生が見た先生を紹介することができたと思います。

「吉江先生の思い出を語る会」は統計研卒業生を中心に“しづか”で行いました。参加者は先生に大変お世話になった卒業生で、各自の思い出を語り、仕事の都合で参加できなかった方のメッセージも回覧し先生を偲びました。思い出話を聞いていると、先生がその人の人生を左右するインパクトを与えていた事があったからこそコロナ禍中、先生への感謝の気持ちを表したいため参加したのだと感じました。学年は違うが連帯感を持つことができ、次回再会を約束しました。

※ 墓参り後の吉江先生宅

翌朝宿泊した8名で浅間温泉から車で、先生が通勤で通われた分水嶺の善知鳥峠、小野の街並みを懐かしく見ながら辰野の先生宅に向かいました。河岸段丘の坂を登り何度となく通った狭い道を行くと、家の前で奥さん、息子さん、娘さん、お孫さん、先生と奥さんそっくりの吉江ファミリーが出迎えてくれました。お孫さんが先頭に立ち、天竜川がよく見える高台にある墓まで案内をしてくれました。各自墓前で合掌しお祈りをした後、先生宅の庭で吉江ファミリーと歓談の時を持った後、辰野駅で解散しました。今回お墓参りを通じて、先生は余生を暖かいご家族に囲まれ穏やかな時を過ごされたと感じました。

追悼会、語る会、お墓参りを行うにあたり、先生の奥様の多くの協力、語る会をまとめて頂いた宮城さん、上野さん、高藤さん、太平さんの協力により催すことができた事を感謝します。

吉江先生のご冥福をお祈り申し上げます。最後に、「先生ありがとうございます」。

《 特別寄稿 》

丹羽公雄氏(文理 17 回/名古屋大学名誉教授)

第 75 回中日文化賞受賞

中日文化賞は、中日新聞社が、学術・芸術・文学・宗教などに優れた文化的業績を顕した中部日本地区に関係する個人または団体を顕彰する文化賞です。物理系の科学者としては、第 1 回の受賞者に理論物理学の坂田昌一氏、その後も第 44 回赤崎氏、第 48 回小林・益川氏などこの賞を受賞された後にノーベル賞を受賞された研究者が名前をつらねておられます。丹羽さんもこの大きな賞にまた一步近づいたと期待して良いかも知れません。

中村 光廣 (理学 11S/素粒子研究室 名古屋大学未来材料・システム研究所 教授)

丹羽さんの業績、タウニュートリノの検出、に関しては、2020 年度のポンテコルボ賞受賞、2021 年度のパノフスキー賞受賞と国際的に再評価が進んでいます。個人的には本来もっと早く評価されるべきものであったと考えていたので再評価が進むのはうれしいことですが、残念ながらその背景には素粒子物理学分野の研究展開の現状があるのではないかと考えています。

タウニュートリノは、素粒子の標準理論を形作る最後の基本粒子ですが、発見当時、21 世紀入り口時点で、主流といわれる素粒子研究者を支配していた雰囲気は、21 世紀初頭には世界最高エネルギーを実現するプロジェクト LHC が実現できて、いわゆる標準理論を越える素粒子(超対称性粒子)がジャカスカ見つかかり、それに伴って宇宙の暗黒物質の問題も解明出来て、標準理論を越えた大統一理論の新世界が到来するであろうという楽観的なものでした。しかしながら、今日に至るまで、標準理論を越える粒子は影も形も見えておらず、LHC は標準理論の枠組み内の Higgs 粒子を検出してからうじてその体裁を繕ったのみ



▲2022 年 5 月 3 日の中日新聞が大きく報じた

です。新世界は無いが、あっても今の LHC では手の届かない高嶺の花である事が見えてきています。LHC の次のいわゆるエネルギーフロンティアの更新は 2060 年ごろとなる予定で、世界情勢や地球環境問題の緊急度によってはもっと遅れることとなります。一方で標準理論を越えたのはニュートリノであり、その中でタウニュートリノが絡む業績、その存在の検証とその検証技術をもちいて振動現象を確定させた業績は、誰の目にもあきらかな金字塔となっています。

個人的には、現在の素粒子物理学分野のように新しい情報を引き出すのに膨大な時間とお金がかかるようになってしまった分野は、人類の学問としては一応の完成を見たとして、これまでのやり方を改めて、多様な小商い研究群を推進するのが自然なやり方ではないかと思っています。その一つの方向は、素粒子物理の成果をその一つ上の階層（ハドロン、原子核などのクォーク多体系）に応用するというような物性物理的な方向であり、今ひとつは、素粒子物理学研究のために開発された手法・技術を別の分野へ応用展開するという技術応用的なものです。前者に関しては、陽子の質量の内いわゆる Higgs 粒子が関与して作り出しているのは 1% のオーダーしかなく、その質量のほとんどが強い相互作用の相転移により生じているという事実があります。この意味で、これら通常物質と質量の総量においてファクター程度の違いしか無い宇宙の暗黒物質も強い相互作用の相転移起因かも知れないというのはそれなりの理由がある様に見えます。このように前者の世界は実は裾野の広い研究分野であるといえます。

丹羽さんは、現役のころに既にこの二方向に関して、先駆的とも言える研究の方向付けを行っています。物性物理学的展開に関しては、ストレンジネス 2 個を含む 6 クォークから成る系の物理の開拓をあげることが出来ます。この研究は元々京大の今井憲一氏らが我々のグループ (F 研) に持ちかけてきたもので、我々が当時 (1980 年代後半) 行っていたチャーム粒子やビューティ粒子研究のための技術 (原子核乾板-カウンター複合実験技術、半導体放射線検出器など) を流用して実験を実現しました。H ダイバリオンと呼ばれる 6 クォークハドロンの発見は出来ませんでした。副産物としてラムダ粒子 (クォークの組み合わせで uds) 二個を含む原子核 (ダブルハイパー核) の世界初の同定検出に成功し、この方面に新たな研究の鉱脈がある事を明らかにしました。この研究は、その後岐阜大学の仲澤和馬氏 (F 研で学位) に引き継がれ、検出事例数を飛躍的にのばし、中性子星のコアの物質状態に関わる相互作用の研究につなげるなど、今後の進展がさらに期待されるものとなっています。(この成果で仲澤氏は 2020 年度の仁科賞を受賞されました)。

技術応用的展開の代表格としては、宇宙線ミュオンを使ったピラミッドの透視をその代表例としてあげることが出来ます。この研究はもともと東大地震研の田中宏幸氏が、我々のグループに持ち込んできた事がきっかけでその展開が始まったものです。火山を透過してくる宇宙線ミュオンを用いて、火山のレントゲン写真を撮りたいと言うものでした。2006 年頃に、当時行っていたニュートリノ振動実験

OPERA の技術（OPERA フィルム、超高速読み取り装置）を流用して、浅間山・昭和
新山の透視を行いその密度構造の計測を行い、この手法の有効性をはじめて実証して
見せたのが最初です。田中氏はその後地震研でこの技術をさらに発展させて火山の
動的撮影にチャレンジするなど火山を対象とした研究の第一人者として活躍してお
られます。我々の研究グループでは、熔鉱炉の透視実証、福島第一原発二号機のメ
ルトダウンの証拠の把握を経て、2014 年頃から本気で古墳やピラミッドの透視に取
り組む人たちが出てきて、2017 年には森島邦博君・北川暢子さん（両名 F 研で学位、
丹羽氏指導教員）らがクフ王のピラミッド中に未知の大空洞を検出し世界的に注目
されるに至りました（NHK の番組などで見られた方も多いのではないでしょうか）。

この成果もあり、この手法を用いて複数の研究領域をまたいだ応用研究を行う新
しい研究グループ（μ 研）が森島君らを中心にして昨年度から名大に発足しました。
これは原子核乾板が電源不要で、軽量コンパクトな検出器である事をフル活用した
ものですが、時代的背景としては、写真のデジタル
化によるフィルム産業の衰亡に伴い、写真技術
者・研究者ならびに関連企業の協力のもとに行っ
てきた原子核乾板の名大における内製化がありま
す。また中野敏行君（F 研で学位、丹羽氏指導教
員）によるニュートリノ研究を推進する原動力と
なった自動飛跡読み取り装置のさらなる高速化を
あげることができます。これらの背景技術を活用
して、原子核乾板を用いた気球搭載型の大口徑高
精度 γ 線望遠鏡計画が進んでおり、2018 年のオ
ーストラリアフライトでは、 γ 線天体ほ座パルサー
のイメージングに成功し、その分解能が現在第一
線で活躍しているフェルミ衛星の約 70 倍良い高
精度である事を示すことが出来ました。現在 20
23 年度のオーストラリアフライトに向けて、原
子核乳剤の量産、フィルムの量産がはじまってい
ます。

原子核乾板は 110 年以上の歴史を持つ放射線検
出器ですが、現在名大周辺には原子核乳剤の開発
・製造装置、フィルムの自動塗布装置、現像施設
（岐阜大）、超高速自動飛跡読み取り装置ほかデ
ータ解析を行うためのファシリティがそろっており、学生・院生 1 人でも自分の思
いついた研究を少量から手軽に試して見る事が出来るようになっていきます。うま
くいった場合の規模拡大も比較的容易で、これまでのフィールドであるニュートリ
ノ研究やハドロン研究、上で紹介した新たな研究領域以外にも、さまざまな個人の
発想を種にした研究プロジェクトがすすんでいます。超冷中性子を用いた未知力の



※各方面から頼まれた賞の解説のため
に、格好良い写真が欲しいと言ったら最
初に送って来てくれた写真（当然没です
が同窓会報にはふさわしい？）。ユンボ
を駆使して山林を開拓中の丹羽さん

探索・ダークエネルギーの直接測定、陽子線治療施設における陽子線ラジオグラフィの研究などなどです。コロナ禍といえども、様々な大学の研究者・院生・学生が施設を利用するために研究室に出入りしており、マスクをしているせいあって、誰がだれやら自己紹介をしてもらわないと、自分の研究室の4年生すら認識出来ない状況です（中村の年のせいではないかと言う人もいます……）。

長々述べてきましたが、このようにチャーム粒子の発見、タウニュートリノの発見で活躍してきた原子核乾板を用いた研究はさらなる広がりを見せてきており、このようなことも再評価の後押しになっているのかも知れません。いずれにせよ丹羽さんには長生きしてもらって、大きな賞の来訪を心静かに待ってもらいましょう。以上 第75回中日文化賞受賞に絡んで書かせていただきました。

（文責 11S 中村光廣。PS 私事ですが、私も本年度が大学での最終年度となります。丹羽さんから研究グループを引き継いで13年。いろいろ有りましたが、なんとか研究グループならびに原子核乾板を潰さずに済みそうです。ご叱責ご支援くださった恩師ならびに同窓の皆さまに感謝いたします。丹羽さんとは1979年の乗鞍での信大のウィンターセミナーからのお付き合いといえますが、これでお役御免ということで、なにか奇妙な開放感があります。中村本人にその自覚はなかったのですが、信大へ立ち寄った時に森覚先生が、「かわいそうに中村は丹羽にこき使われている」と言っておられたことが最近不思議と思い出されます。これからは同じ信大の卒業生の一人として、丹羽さんとはお付き合いできればと思っているしだいです。）

ことし3月卒業生の進路状況

＝学部卒就職＝

■民間企業(各1人)

アイリンク 株式会社ジャステック アクセンチュア オリオン機械株式会社
株式会社ライツアパートメント セイコーエプソン株式会社 新光電気工業株式会社
株式会社ステップ

■公務員(5人)

＝学部卒進学＝

□信州大学大学院：9人 京都大学大学院：1人 総合研究大学院大学：1人
名古屋大学大学院：1人 東北大学大学院：1人 神戸大学大学院：1人
東京工業大学大学院：1人 電気通信大学大学院：1人 北海道大学大学院：1人

＝修士卒就職＝

■民間企業(各1人)

三菱スペース・ソフトウェア株式会社 サンディスク株式会社 パナソニック株式会社
日置電機株式会社 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
株式会社オービックビジネスコンサルタント

＝修士卒進学＝

□信州大学大学院博士課程：1人

(信州大学調べ)

1/3
<0> 3
~ - / ~
~ (~ 3
..

一学生の大学時代

【本稿執筆の経緯】

5月下旬に届いたはがきに、7月の同窓会総会にあわせて「吉江先生の思い出を語る会」を計画しているとの案内がありました。宛名住所は吉江先生の奥様からこの目的のためだけの条件でご提供されたとのことで、ならばぜひとも参加せねば、との思い

ですぐに申し込みをしました。が、話が具体的になってくると、コロナ禍の自分の立場を考え、直接参加をやめた方がよいとの結論に至り、オンラインでの参加に変更させていただきました（ご関係各位にはご迷惑をおかけしました）。

オンラインでの参加後、そのお礼を事務局にメールしたところ、高藤さんから「リレーコラム」への寄稿要請がありました。実は数年前に「勝木渥先生を偲ぶ会」（本会報64号、68号をご参照ください）でお会いした足助さんに「P連」のことで寄稿するように言われましたが、多忙を理由にお断りした経緯がありました。今回の再度の要請はさすがに断れないだろうと覚悟を決め、先輩諸氏を差し置いてたいへん失礼ながら、一学生が過ごした大学時代のことを吉江先生の思い出から始まって辿ってみることにしました。

柳沢 淳一（理学 15S／統計研究室 滋賀県立大学・教授 彦根市在住）

●● 吉江先生のこと（大学2年生） ●●

2年生から始まった物理学実験の初回のテーマは「物理天秤」でした。担当の吉江先生からは何の説明もなく、最初だったため前のグループの経験者にも聞けなかったのが、相方となったA君と一緒に教科書だけを頼りにあれこれと試行錯誤をしました。ようやく準備が整い、「では本実験を始めようか」となったときには20時を過ぎていました。A君も「やろうか」ということで、結局実験は徹夜になりました（初回から、しかも「物理天秤」で！）。明け方になると、それまで実験室には顔を出さず、研究室に泊まっておられた吉江先生が入ってこられ、「頑張っているな。コーヒーでも飲むか？」と誘っていただき、いただいたコーヒーの何とおいしかったことか！

大学入学後、しばらくして入団した「信州大学交響楽団（以下、オケ）」では初心者ながらチェロを始めましたが、音楽にうつつを抜かしてはダメだろう、と思い、2年生になる前に退団しました。2年生からは（晴れて？）物理の勉強に専念す



べく、まずは環境から、ということで、物理実験室が空いているときにそこで勉強できるよう、吉江先生にお願いして使わせていただきました。やはり物理だけ勉強していると先が見えず、勉強する意欲も薄れてきたので、夏休みに入ったころ吉江先生にお願いして、「これぞ物理、と思えるような実験をやらせていただけませんか？」と厚かましくもお願いしたところ、快く受け止めていただき、しばらく考えていただいた後（いきなり言われてお困りになられたでしょう）、「ガイスラー管でも作ってみるか！」とご提案いただきました。それが「これぞ物理？」と思いつても、統計研のガラス工作台で吉江先生から直接ガラス工作の手ほどきを受けました。ガラス管内で高電圧放電させるために必要な金属電極を、「ガラスに密着させて真空漏れがないようにするのが難しいな、どうするかな」と考えておられましたが、フィラメントが切れて使えなくなった真空測定子（ガラスから金属端子が出ています）を割り、それを用いることを思いつかれ、そのやり方を教わって何とかガイスラー管を完成させました。

実際に真空にひいて高電圧をかけたところ、ガラス管内部できれいな放電が見られました。吉江先生は統計研の学生にも声をかけ、それを見せていましたが、とても嬉しかったことを覚えています。今でも真空装置でガイスラー管の放電を見るたびに、そのことが思い出されます。この体験から、実験をするときに足りないものは周りにあるものを工夫して使う、ということを吉江先生から学びましたし、現在に至るまでその姿勢が役立っています。

また、この時期「P連（物理学科連絡会）」の委員長（？）を仰せつかり、学科の種々の行事に携わりました。中でも学科のソフトボール大会をお世話すべく、日時を決め、当日の授業担当の先生方に休講のお願いに回っていたところ、教室主任の辻村先生から呼び出されました。部屋に伺うと、真っ先に「ソフトボール大会、いつ誰が決めたんや？」と言われました。こちらは先輩から受け継いだ手順で準備していたので、「〇〇先生からは休講の許可をいただきましたが」と答えると、「それは〇〇が勝手に休講にするだけや」とのお返事。話をお聞きしていると、どうも学科会議で正式に決める必要があるのに、学生が勝手に決めて動いたことが間違っているようだとなり、あらためて正式にお願いすると「わかった」ということで、後は穏やかに話を進めることができました。当時は何もわかってはいなかったのですが、筋を通すことの大切さを教わりました。

●● 大学3年生 ●●

3年生になると、宮地先生の「量子力学」が始まりました。何かの折に、宮地先



▲吉江先生による大気圧の物理実験の様子
(写真提供・吉江かなめ)

生から「昔は教師のしゃべったことをそのまま紙に書きとめ、あとで清書してノートを作ったものだ」ということをお聞きしていたので、それを実行しました。わら半紙に先生がお話しになることを一言一句書いていきましたが、途中から清書が追いつかず、わら半紙だけが溜まっていきました。挙句の果て、今では信じられませんが、近くの下宿から2限目の講義に遅れずに出席することがたいへんで、ちょうど「摂動論」のときに休んでしまいました。友人からノートを借りましたが理解できず、しばらくして挫折しました。試験は受けましたがさっぱりわからなく、案の定不合格でした。

問題を解いてレポートを提出する救済がありましたが、それでも解けないので、今年をあきらめ、来年に再度受講するので今回はレポートを出しません、と宮地先生に伝えに行く途中、Y君と階段で会（ってしま）いました。彼の「レポートの提出期限を延ばしてもらった」との話でこちらの決心がゆらいでしまい、そのまま宮地先生の部屋に入り、レポートのことを切り出すと、「それで？」とおっしゃるので「レポートの期限を延ばしていただけないかと・・・」と答えると、「オレはレポートの期限を延ばしてくれ、というのが一番嫌いだ・・・(中略)・・・君はもっとまじめに勉強していると思っていたのにな」とダメ出しまでされ、しゅんとして戻ってきたのを思い出します。

結局レポートは出さず、翌々年に再受講したときの試験では、試験中に横に立たれてしばらく私の答案を見ておられました。「こんなのも解けんのか？」と言つぷやかれて行かれました。試験後に「あとでレポートを提出して良いでしょうか？」と尋ねると、一言「もういい」と言われ、何とか通していただきました。年月が経ち、今、大学で「量子力学概論」の講義を担当していますが、先生が訪れたことがあるという琵琶湖の湖北地方の仏像の冊子をお送りしたところ、いただいたお返事に「自分なりの量子力学を組み立ててください」と書かれていたことがたいへん励みになりました。レポート等の提出期限を守ることの大切さを認識させられた一コマでしたが、今も学生への指導に生かしています。

3年生のあるとき、極めて個人的なことで精神的に危機を迎え、誰かに相談に乗って欲しいというときに、なぜか永井先生のことを頭に浮かび、自宅に電話をかけて「これからご自宅に伺っても良いでしょうか？」と伺ったところ（なんと迷惑な話!）、「これから大学に行くので待っている」とのお返事をいただきました。本館北側入口で待っていると、永井先生がビール2本とつまみを持ってこられました。

統計研のソファでビールをいただきながら話を聞いていただき、その後は鶴林堂書店近くのカラオケへ、さらにその後はお寿司屋さんまで連れて行っていただきました。翌日、そのお礼に伺うと、「世の中には星の数ほど・・・」と慰めていただきました。今、学生から（個人的な）相談を受けたときには大学近くのレストランで食事をしながら話を聞く、というスタイルになったのは、このときの経験が大きく

影響していると思います。卒業研究は永井先生のもとで、と決心した瞬間でした。

●● 1回目の4年生 ●●

しかしながら研究室配属では「物性研」を希望しました・・・というのは、やはり音楽に未練があり、3年生から再入団したオケではチェロのパートリーダーになったため、それを全うするには他の誰よりもうまくなくてはならず、チェロの練習のためにこの1年はオケに専念しようと考えたためでした。研究室に配属されて大学に出て来なくても迷惑にならないのは理論系だろう、ということで物性研を希望したのですが、予め勝木先生にはその旨を宣言しました。

先生からは、「将来、勤続年数などで不利になることはあろうが、音楽に造詣が深い物理学者になるのは良いのではないか」と励ましていただきました。幽霊学生でありながら、予定されていた中学での教育実習には、勝木先生に上田市まで来ていただきました。見学授業は、ストローで息を吹きかけながらスチールウールを燃やし、その前後で手製の天秤で質量を比べる実験だったのですが、勝木先生は終始にこやかに、楽しそうに見ておられました。駅までお見送りする途中、「出るかどうか分からないが、もしも『物理が好きになる本』の続編が出るようなら、今日の内容を書いても良いか?」と言われたので、ぜひどうぞ、とお答えして嬉しくなったのを覚えています。残念ながらその続編は出版されませんでした。このようなご縁で冒頭の偲ぶ会に出席させていただいた次第です。

●● 2回目の4年生 ●●

オケから足を洗い、本格的に物理の勉強に戻るべく、卒業研究ではあらためて統計研を希望し、永井先生に指導をお願いすることになりました。院試までは勉強に専念させていただきましたが、オケから完全に足を洗えることができず、院試に失敗しました。あろうことか2次募集の院試にも失敗し、もう1年残ることにしました。とにかく卒研だけは一生懸命やろうと、最後の方は研究室に1週間泊まり込みで、寝るか食べるか実験かの生活を2週間続けたのはかけがえのない体験でした。

実験結果をまとめ、朝、新館の研究室に泊まっておられた永井先生の部屋に行って結果を説明すると、「で、その結果をお前はどのように考える?」と問われました。実験結果を出すことだけに精一杯で、それだけやれば良いと思っていたのでその問いには何も答えられず、すごすごと引き下がってきました。実験結果を自分で検討することの大切さを身をもって実感した瞬間でした。今では学生にそれを問う立場になっています。



▲卒研では永井先生のお世話に
(写真提供：当同窓会報編集部)

一応は卒研発表を行ないましたが、留年するのにこのまま永井先生に迷惑をかけても良いのか、次は研究室を変えた方が良いのではと悩み、その時に同期だったA君にお見舞いがてら相談しました(同じく留年が確定していた彼はスキーで骨折し、入院していました)。このまま続けてもいいんじゃない? のように励まされ、統計研に残ることにしました。

●● 3回目の4年生 ●●

統計研の2年目、幸いにも永井先生に引き続きご指導いただくことになりました。が、昨年同様に院試までは勉強に専念させてくださいと頼みこみ(なんと身勝手な!), 本当に幸いにも大阪府立大学の大学院に合格することができました。後期からは本格的に実験を始めたのと同時に、辻村先生から「大阪府大の柳瀬先生のところに行くのであれば、柳瀬先生が書かれた論文と一緒に読まないか?」と言っていただき、まずは日本語の解説記事から週一でお付き合いいただきました。

いきなり実験から理論(計算)に変わるポテンシャルを下げてください、とてもありがたかったです。前年よりも実験をより詳細に行ない、自身の解釈とともに永井先生のところを持って行くと、一応のOKは出たものの、「このままでは学会発表はできない。間違っていると、以後誰も信じてくれなくなるから」と言われましたが、ごもつとも、と思い、何とか無事に卒業することができました。同期のA君と統計研で最後まで一緒だったことは、たいへん心強かったです。

●● その後 ●●

6年間でいろいろなことを経験し、他のすべての先生方からも、たくさんのことを学ばせていただきました。大学で学生を指導する立場の今、気がつけば還暦を過ぎ、当時の先生方よりも歳を取ったのですが、気持ちだけは若いままで、受けたご恩を今の学生に返すべく、定年まで取り組んでいく所存です。皆さまそれぞれに大学時代の思い出があろうかと存じますが、これを機にあらためて思い起こすきっかけにさせていただけたら幸いです。

最近読んだ本／書評 ⑥



『部分と全体-私の生涯の偉大な出会いと対話』 前編

(W. ハイゼンベルグ・著 湯川秀樹・序 山崎和夫・訳)

1805年といえば、アインシュタインが、光電効果と、特殊相対性理論、そしてブラウン運動の論文を発表した年で、「奇跡の年」といわれる。では、1927年は、なにかといえば、ボーアが、コモの国際会議で、量子力学の相補性の概念に関して、初めて述べた年で、量子力学が、産声をあげた年である。『部分と全体』は、ハイゼンベルグの自伝であるが、プラトンにおけるソクラテスとの対話のようなことを目指したので、それは、フィクションであるとも言えるだろう。

来田 歩 (22S/物性論研究室 株式会社科学工房未来 代表取締役 福岡県糸島市在住)

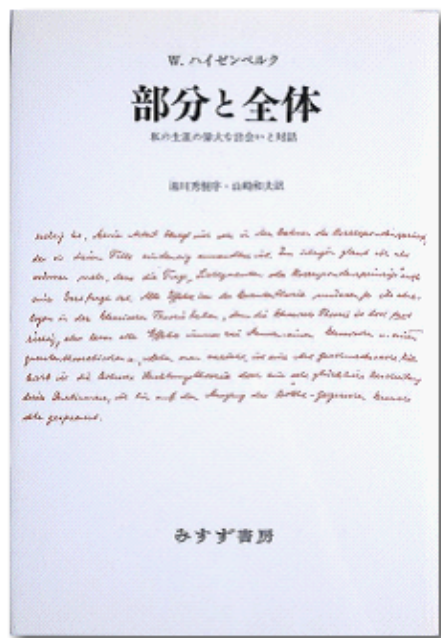
★ 物理学について、むしろ18世紀の中頃の音楽の発展と比較したい

それは、このように始まる。「おそらく1920年の春だったにちがいない。第一次世界大戦の結末は、わが国の若者たちを不安と焦燥におとし入れていた。心底から失望してしまった年配の世代は手綱を失ない、若い人は集まって大、小さなさまざまな団体をつくり、新しい自分たちの進路を求め、古い指針が用をなさなくなってしまういま、せめて新しい指針を見出して、それによって立ち上がろうと試みていた。」

若いハイゼンベルグ青年は、自分の進路を、音楽か、物理か？ 迷う。

「空間だとか時間といったような基本的な概念に、革新的な変更が必要になるだろうなどということは、もちろんはじめは誰も予期しなかった。しかし空間と時間の概念について何かを変えることができ、また変えなければならないということをはじめて認識したのは、明らかにアインシュタインの大発見であった。」

だから僕は、君が物理学について話したことを、むしろ18世紀の中頃の音楽の発展と比較したい。当時、個々の人間の感覚世界は、ゆっくりとした歴史的な過程を通して、われわれがルソーやあるいはゲーテのベルテルから知るような、時代の意識の中に足を踏み入れ、そこでクラシックの偉大な人たち、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、シューベルトたちが表現方法の拡張によってこの感覚世界に対して適当な表現を見つけることに成功したのだ。しかし僕には今日の音楽には、新しい内容があまりにもわずかしか認められないか、あるいはあまりにも認めがたいし、表現の可能性の洪水は僕にはむしろ心配になるだけ



発行 みすず書房
ISBN 9784622049715
ページ数：403ページ
サイズ：四六判
価格 定価3,500円(税込)
初版発売 2009年

だ。」

「そのような新しい自然法則に対する最初の暗示は、明らかに 20 年前のプランクの量子論の中に見出される。そしてデンマークの物理学者ボーアが、イギリスのラザフォードによって発展させられた原子構造についての描像と、プランクの着想を結びつけた。それによってボーアは、僕が今ちょうど述べたような原子領域における注目すべき安定性に初めて光を投ずることができたが、ゾンマーフェルトがいつているように、この領域では状況を明白に理解するにはほど遠い。だからこの領域にはおそらく何十年にもわたって、新しい関係を見つけることができるすばらしく広大な新天地が開けてくるのだ。」

★ 最初は数学を志すが、アインシュタインに憧れ、物理学の道へ

さらに、次のように書いている。

「新しい領域をうまくこなせる正しい概念を見つけ出すことこそ大切なのだ。だから僕は今日では、音楽よりも原子物理学にもっと重要な原子物理学にもっと重要な関係や、もっと大切な構造の手がかりをつかみ得るものと信じている。しかし 150 年前にはちょうど逆であったということを、僕は喜んで認めるよ。」

ここで、ハイゼンベルグ青年は、かつてモーツァルトが活躍した時代であれば、音楽は、新しいものであったが、今や、それは新しいものがなにも出てこない荒地で、物理学こそ、次から次へとわくわくするような、新しいことが出てくるフロンティアだと言っているわけだ。

ワルターという友人の母親は、ハイゼンベルグ青年にこう語りかける。

「おそらくバッハとかモーツァルトのような人物が、音楽の王様としてわれわれの目にうつるのは、彼らが 200 年にわたって多くの名もない音楽家たちに、最大の注意深さと誠実さをもって自分たちの思想を再構成させ、新しい解釈を下し、それによって聴衆に理解できるようにする可能性を与えたからでしょう。」(中略)

「こうしてこの過程は突然に、そしてしばしば全然予期もされなかったような新しい可能性や、新しい内容を創造します。偉大な天才は、このような経過の中から次第に姿を現してくる成長力に魔術的に引き寄せられて、20、30 年もたつたないうちに、せまい空間の中に非常にすぐれた芸術作品を創造し、あるいは大きな重要性をもった科学的な発見をすることになるのです。」

「そのようにして 18 世紀の後半にウィーンでクラシック音楽が形成され、またそのようにして 15、16 世紀の絵画がオランダに生まれました。偉大な天才は、じっさい新しい精神的な内容に外面的な表現を与え、その中にさらに進んだ発展がなされるような価値ある形式を創り出しますが、彼らは新しい内容を自分自身で創造することは決してありません。」

ハイゼンベルグ青年は、新しさに憧れていた。それは、戦後の古さからの脱却であっただろうし、そこで、アインシュタインに憧れ、物理学の道に進む。最初は、数学を志すのだが、リンデンマンに受け入れられず、ゾンマーフェルトに見出される。

「私が高校の勉強の余暇にやってきた数学の勉強やワイルの本『空間、時間、物質』についての話が話題になった。ゾンマーフェルトはリンデンマンとは全くちがった反応を示した。」

「あなたはあんまりむずかしいことを求めすぎていますよ。」と彼は言った。「一番むずかしい所からやったからといって、もっとやさしいことがひとりで理解できるようになると期待することはできませんよ。私にもあなたが相対性理論の問題領域にひきつけられるのはよくわかります。しかし現代物理学は他の所でも、哲学的な根本的命題をとりあげており、また最も刺激的な種類の認識を問題にするような領域へも進出しています。ですが、そこへの道はあなたがいま考えているよりもずっと遠いのです。あなたは伝統的な物理学の領域の中の、細かな仕事からはじめなくてははいけません」

彼は、ゾンマーフェルトの弟子になり、彼から、ある日、随分唐突に、こう言われる。

「あなたはニールス・ボーアと個人的に接触を持ちたいですか？ ボーアは近くにゲッチンゲンで彼の理論についての連続講義することになっています。私は招待されていますが、あなたを一緒に連れて行くこともできますよ。」

そして、ハイゼンベルグは、助手としてお世話になるに、ボーアに出会う。ここで、61 ページ。『部分と全体』は、395 ページあるから、まだ、5分の1にも達していない。この続きは、また。

おそらく、ハイゼンベルグ青年が、現代において、青年であったなら、物理は志さなかつただろう、それは、かつての音楽のように別段新しい革命的な出来事がおこるわけでもない、もはや、わくわくするような学問ではなくなっているからである。脳科学や、分子生物学を、おそらくは、志すのではないだろうか？ たぶん。

【 以下次号 】

I N F O R M A T I O N

□ 信州大学理学部 国際宇宙科学研究センター Web サイト

竹下徹特任教授がセンター長を勤める「国際宇宙科学研究センター」のサイトが公開されている。URLは、 <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/CIRU/>

『本センターは当初は、「国際=CERN 研究所での研究」、「宇宙科学=LHC 加速器でのアトラス実験」から始めることにしました。LHC 加速器におけるアトラス実験のメンバーで発足し、現在の構成員は3名（長谷川、川出、竹下）です。LHC 加速器は、素粒子の研究を行うための世界最大最高エネルギーの加速器であり、陽子同士の衝突によりビッグバン直後の宇宙極初期の超高温に相当するエネルギーを作り出すことができます。その意味で当センターでは、「LHC 加速=宇宙研究」と解釈しています。今後とも研究の進展についてこのサイトで報告していきますし。』と書かれている。

☆☆☆☆ | 新 | 入 | 学 | 生 | か | ら | の | 声 (メッセージ) ☆☆☆☆



▲本年度の新入生の皆さん。2022年4月4日の入学式のあと、全員集合して撮影した（撮影・志水久）

■ 広がった世界 * * * * * /@) > \ / |
◎ 川田 澄人 (理学 022S) > >> \ / |

今年2月の受験を終え、4月から住み慣れた故郷を離れ一人暮らしをする典型的な大学生になりました。この生活になって数か月になりましたが、いまだに一人の力ですべての生活をカバーできず失敗ばかりしています。失敗を繰り返すたび、今まで気づかなかった親の偉大さを切実に感じています。これからはもっと親孝行をするべきですね。頑張ります。

大学生になって自由が大きく広がりました。授業の履修登録からサークル活動、今日何時に起きて何時に寝るなどの生活スタイル、買い物などすべての行動を自分の自由にすることができます。高校にいた頃も先生や先輩などから自由があるよと言われ、漠然とイメージはしていましたが、実際に当事者となると一気に広がった自由に困惑しました。4月に私は、本当にこの場所で少なくとも4年間一人で暮

らすことができるのかと、ホームシック気味になっていました。やはり実家から近い進学先にするべきだったかと思ったこともあります。それほど世界が一気に広がりました。

広がった世界に一步踏み込む手助けをしてくれたのは新しくできた友人たちでした。恐らく皆、自分と同じく大きく変わった世界に困惑していたと思います。お互いを頼りにして遠慮なく分からないことを聞きあえる人たちが周りにいてくれたことが本当にありがたかったです。「友人というのは一生もの」という言葉を

中学時代の恩師が言っていたのを聞いたことがありましたが、本当にその通りだと思いました。

そんな友人の一人に影響され、部活は自転車競技部に入部しました。これも全く未知の世界です。長野県は自然が本当に豊かで、松本から少し離れた四賀村や安曇野など自転車好きにはたまらない場所が多いです。そのため松本には自転車を趣味にしている方が大変多く、そうした方から日々、自転車競技をする中で大変勉強になるお話をいただいています。こうした人々と出会うことができたのも、新しい世界に入る手助けをしてくれた友人のおかげです。感謝しています。

以上、広がった世界についてでした。大学生になってみんな一気に広がる世界に困惑すると思います。そんな中で少し勇気を出して友人を作ると、お互いが新しい世界の架け橋になることができます。自分もほかの人に新しい世界をどんどん紹介していきたいなと思います。



▲7月の自転車競技大会に参加した



| W | E | B | 登 | 録 | 者 | 拡 | 大 | 運 | 動 | ご協力ください！ (再掲載)

信大物理同窓会事務局では、会員同士を結ぶ“絆”としてWEB会員登録をたいへん重視しています。WEB登録いただければ、当会メーリングリストに加入でき、会報や役員会議録、会報の発行情報、メルマガ等が受け取れます。また、個人から登録者全員への情報発信もできます。一旦登録された方は、ほとんど辞めずに継続されています。つまり、世代や学年そして研究室の枠を超えて同窓会員同士が生涯に渡ってお付き合いできるツールとなっています。

しかし、まだこのシステムを知らない会員がたくさんいます。そこで、あなたの友人・知人で未登録の方がいましたらこのメルマガを転送するなどして、個人的にお勧めいただくよう、お願い申し上げます。

●登録WEBページ → http://www.supaa.com/supaa_form.html

近年の登録者数の推移は以下の通りです。おかげさまで、登録会員の総数が現在

400名を超えてきています。

◎信大物理同窓会 WEB 会員登録者数（新規・変更）の年間推移

2010年：16人 2011年：10人 2012年：13人 2013年：9人 2014年：9人
2015年：22人 2016年：45人 2017年：35人 2018年：23人 2019年：18人
2020年：14人 2021年：15人



<再掲> ■「同窓会費」は終身会費として1万円。『会計細則』決まる！ ■

1. 同窓会費は終身会費として1万円とする。一括払いを原則とするが、本人からの申し出があった場合は事務局長が分割払いを認めることができる。
2. 事務局長名で金融機関に同窓会の口座を設ける。事務局長が通帳・印鑑を管理する。会計担当がカードを管理して口座からの出し入れなどを行う。
3. 在校生からの同窓会費徴収は、事務局が徴収日を決めて実施する。徴収後、在校生の会費支払い者リストは、すみやかに会長ほか、会計担当および関連事務局員に伝達する。
4. 金融機関への振込み手数料は会員の負担とする。
5. 会計担当は、年1回開催する総会を利用したり、メールで呼びかけたりして、卒業生からの会費徴収に勤める。
6. 毎年開催の同窓会総会における参加費の徴集など会計管理については、その年の幹事が担当し、事務局が補佐する。必要経費は事務局から事前に仮払いのかたちで支出できる。幹事は開催後しかるべく早く収支を事務局に報告し清算する。
7. 会計年度を4月から翌年3月とする。会計はすみやかに決算報告を作成して会計監査担当から監査を受ける。
8. 本細則の改正は総会で行う。



▼下記いずれかの口座に | 同 | 窓 | 会 | 費 | のお振込みをお願いします！

◆郵便局の場合／通常郵便貯金 記号：11150 番号：20343411 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭 3-1-1

◆銀行の場合／八十二銀行 信州大学前支店 店番号：421 普通預金 口座番号：650215 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭 3-1-1



<再掲> ■「同窓会費」は終身会費として1万円。『会計細則』決まる！ ■

1. 同窓会費は終身会費として1万円とする。一括払いを原則とするが、本人からの申し出があった場合は事務局長が分割払いを認めることができる。
2. 事務局長名で金融機関に同窓会の口座を設ける。事務局長が通帳・印鑑を管理する。会計担当がカ

ードを管理して口座からの出し入れなどを行う。

3. 在校生からの同窓会費徴収は、事務局が徴収日を決めて実施する。徴収後、在校生の会費支払い者リストは、すみやかに会長ほか、会計担当および関連事務局員に伝達する。

4. 金融機関への振込み手数料は会員の負担とする。

5. 会計担当は、年1回開催する総会を利用したり、メールで呼びかけたりして、卒業生からの会費徴収に勤める。

6. 毎年開催の同窓会総会における参加費の徴集など会計管理については、その年の幹事が担当し、事務局が補佐する。必要経費は事務局から事前に仮払いのかたちで支出できる。幹事は開催後しかるべく早く収支を事務局に報告し清算する。

7. 会計年度を4月から翌年3月とする。会計はすみやかに決算報告を作成して会計監査担当から監査を受ける。

8. 本細則の改正は総会で行う。

▼下記いずれかの口座に | 同 | 窓 | 会 | 費 | のお振込みをお願いします！



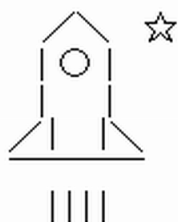
◆郵便局の場合／通常郵便貯金 記号：11150 番号：20343411 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭 3-1-1

◆銀行の場合／八十二銀行 信州大学前支店 店番号：421 普通預金 口座番号：650215 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭 3-1-1

◎編集後記◎

◆・・・九大には、共創学部というユニークな学部がある。AO入試で入学できるらしく、ユニークな学生が集まってくるらしい。社会起業家を目指すとか、すでに、起業しているとか、社会との接点を意識的に持とうとする学生が多く、どこかの場所で、九大生と出会えば、共創学部、なんてことにもなる。自分が学生の頃と比べれば、まだ、大学は、象牙の塔のようで、地域社会のひとたちと接点を持つなんて、考えてなかった。居酒屋でバイトしている、そんな九大生に、今、やっておくべきことと聞かれ、もちろん、勉強だよと答え、そんな当たり前のこと言わないでくださいという感じになったが、そうではなく、居酒屋でバイトしたりする時間があつたら、勉強、それこそ、孤独を高めて、ひとり部屋に閉じこもり、自分と向き合うことができるのは、大学生時代しかない、言いたかったような気がする。今回は、掲載がのびのびになっていたハイゼンベルグの自伝「部分と全体」を読書感想文として、寄せた。引用が多くなったけれど、君たちと同じ若いハイゼンベルグが、どんなことを考えていたかを、知ってほしかった。次号は、その後編が掲載される予定。第二次世界大戦中、ドイツで原子力爆弾の可能性を検討したり、アメリカの講演会で、若い学者たちにやりこめられ、死体のようにこたうパウリとの決別、そんなことを、紹介する予定。 (AK)

★・・・本年度の総会が開催され、新たなメンバーも役員に加わって同窓会の運営がされていくことになりました。今後の同窓会の発展に、微力ではありますが、何か尽くせようと改めて思うとともに、皆様のご協力をお願いします。会員の高齢化により、旧制高校の同窓会が姿を消していったりします。国立大学でも、埼玉大と群馬大の合併がかつて検討されたり、最近では東工大と東京医科歯科大の連携検討が発表されたりしています。大学にも変化の



波が寄せてきており、母校である信州大学は今度どのように変化していくのでしょうか。信州大学と物理同窓会の今後の発展を祈っています。 (NA)

☆・・・最近話題の世界平和統一家庭連合（日本では2015年に統一教会より改称）ではLGBTや同性婚、夫婦別姓は「生活共産主義」として、認めさせてはならないと説いているそうだ。この方向性はSDGsなどが目指す持続可能な社会に必要と考える条件とは異なっているが、現在の日本の保守政党の方向性には近い。一方、欧米では統一教会がセクト勢力やネオナチ勢力と考えられフランスやロシアなどで規制や監視対象とされた。定性的に宗教は政治に近づこうとするし、政治が宗教を利用しようとすることも定性的である。心しておきたい。

☆・・・私が大学を卒業した時期も統一教会の勧誘が盛んな時期で、家への訪問や街中でのアンケートに見せかけた勧誘などが行われており、私も複数のグループから声を掛けられ、それぞれのグループから同じビデオを見せられた。今思えばその頃の統一教会は急拡大中で、グループ間で競合していた(?)らしく、「別のグループで既に同じビデオを見ました」と言って断れる状況であったため、当時は事なきを得た。少し間違っていたら、私自身洗脳されていた可能性があり、今さらながら寒気がする。 (YM)

■・・・去る第25回物理会総会（at松本）では3年振りの開催となり、コロナ禍において恒例の懇親会を断念せざるを得ませんでした。多くの方の参加をいただきました。来年には、懇親会を含めて大勢の会員皆様との再会を愉しみにしております。コロナ禍の早期の終結と会員各位のご健勝を願っております。 (HT)

●・・・ことしの総会は「やっと」開催できた気がする。そこでのいちばんの印象は、世代交代であろう。賑やかだった文理卒業生の参加がすっかり減ってしまった。一方、その穴を埋めるように中堅や若手の参加者がぐっと増加した。この会の将来は決して暗くないという実感だった。「光陰矢のごとし」「歳月人を待たず」であろう。この間に、当会設立に絶大なる貢献をいただいた根建前会長、松原前副会長を失った。せめてもの手向けに総会で黙祷を捧げた。合掌。きょうはお盆である。

●・・・安倍元首相が凶弾に倒れ、我国の歴史が大きく書き直される。この事件を発端に、カルト教団とされる旧・統一教会の実態と政治家との癒着が次々と明るみに出た。その力は、選挙での与党の応援に限らずで、総裁選にまで影響を与えたという。恐らく我国のあらゆる分野に進出しているだろう。教団との連携・擁護の第一人者が安倍氏。皮肉にももう一人の民主主義の破壊者だった？ (MT)

=====

● 信州大学物理同窓会会報 0081号 (2022年夏秋号) SUPAA BULLETIN No. 81 ●

● 2022年8月17日発行 ●

□ 編集・発行/信大物理同窓会事務局

□ 編集長: 高藤 惇 □ 発行人: 太平 博久

《編集委員》高藤 惇(2S) 渡辺 規夫(4S) 太平 博久(6S) 足助 尚志(17S) 百瀬 佳典(17S) 來田 歩(22S) 武原 一記(22S)

■当会報のバックナンバー閲覧サイト: <http://www.supaa.com/kaiho/index.html>

■当会へのお問い合わせ先: <http://www.supaa.com/postmail/postmail.html>

(C)信州大学物理同窓会事務局 無断複製・転載を禁ず